

1 講義に対して

2020/11/20 議会改革推進会議 資料No.1

木下 徳康	○議員力・議会力を向上させるのに一般質問を議員ひとりのものとしな いように「わがまちの課題として」委員会、議会として取組める体制が 必要である。
岡田 倫英	○「正解があるなら議論は無駄」「まちをよくするには、必要不可欠にき ちんに対応すること(必要以上はしない)」など、政策論議に関する基 本的な心構えを教わることが出来た ○鷹栖町議会の一般質問告知を例に「議会自治」の考え方を教わった。 ○執行側の対策「やり過ぎし答弁」に吞まれないよう、着地の言い回しの 工夫(例:論点は次の機会に確認したい)
清水 優一郎	○一般質問を議員一人のものにせず、議員間、執行機関、市民、社会への 共感、共有、時には問題提起に繋げていくことが重要だと、再確認でき た。 ○政策提案も元は個人の発想であり、議員個人の日々の研鑽が元となる。
小林 真一	○自治体政策について、行政の直接制御と間接制御が91%であること での、議会不要論これについては私も悩んでいた部分であったが、議 会の直接制御と、間接制御を強化していく必要があるとの話は腑に落 ちた。 ○「無謬の行政」「間違わない行政」という話について、決めなければなら ないが、答えはないという事、事実を揃えた上での質問、と共感によ り提案を行うことにより政策は良くなっていく。
山崎 昌伸	○土山先生の講義を受け、「一般質問を通じた議員力・議会力の向上」に ついて、改めて確認ができて良かったと思います。
後藤 荘一	○参考になりました。 土山先生が指摘しているように、議員として、一般質問は議員一人 対執行機関当局という、議員の主張ができる場所で脚光や注目を受け ることになると思います。私としては、執行機関が提出する議案に集 中したいと常に思っています。 ただ、共産党として主張や指摘しなければならない課題があるので そう言う場として一般質問が必要です。 テクニックは必要ないかなと思っていましたが、今頃になって必要 性を少しですが感じてきました。
木下 容子	○とても分かりやすい講義で参考になった。 ○一般質問を議員一人のものとしな いで、「委員会の所管事務調査」や、 「委員会としての代表質問」などの視点は大切だと思った。 ○「議員間連携(複数の議員が同じテーマでの一般質問を行う)」という 方法は、会派内では同じ質問を行わないという、飯田市議会の場合は、 難しい面もあるのではないかと。会派間で協力できるとよい。 ○鷹栖町の新聞折り込みチラシや議会だよりが、議員が自ら作成してい ることは驚きだった。「議会らしくない」と言われそうな気がするが、 議会に関心を持ってもらえるのではないかと。
福沢 清	○一般質問の基本的な考え方、作り方、活かし方について認識を確認で きた。 ○ほかの市町村の事例について、関連質問、全協や委員会での協議など 今後飯田市で実践できることを検討していきたい。

2 意見交換に対して

木下 徳康	(記述なし)
岡田 倫英	○ワークショップを通じて「ほめ出し」(ダメ出しの逆)、「改良の助言」を体験。他の議員の一般質問に対し関心が高まった ○ポストイットを貼りながら感想・助言を出していく取り組み自体が、関連質問に通じると感じた
清水 優一郎	○事例をもとに意見交換ができたので、理解をより深めることができた。 ○私の質問も研究対象としてもらいたかった。
小林 真一	○質問時の「要望します」は相手次第、話し方の例として「わが町には必要である」などの言い回し。言葉一つでイメージが変わる(自分は他の議員の言い方をまねしている節がある、自分の言葉の引き出しがない。反省) ○木下委員長の質問を例にして頂き、自分にも当てはまる部分が多々あった、回答して頂いた事についてのその後の確認などは私も出来ない、どこまでやるのか、どの程度できているのか、自分の質問に責任を持つためにも必要な事である、反省。
山崎 昌伸	○木下委員長には、自らまな板の上によって頂き有り難うございました。 ○ポストイットに記入する時間が少し短かったと思います。
後藤 荘一	○取り上げた題材が良かったので結構盛り上がったのでは。
木下 容子	○実際の一般質問の通告と答弁を参考にするやり方は、興味深かった。ただし、時間が足りなかったため、もう少し踏み込んだ議論ができなかった点が残念だった。 ○一般質問において、「要望する」という言葉を安易に使わないようにしなければ、と思った。
福沢 清	○木下徳康委員長の事例を取り上げ議論したのはわかりやすかった。

3 テーマに対する議会改革推進会議の今後の進め方などについて

木下 徳康	<p>○一般質問に対する関連質問、委員長（委員会）質問設置（設置せずとも「委員総意のもと質問します」と一般質問内でやることも）、片道時間の設定など一般質問関連で事例などを確認し、今後必要なときに検討に入れるようにしておきたい。</p> <p>○今回の意見交換の土山先生提案の「一般質問ブラッシュアップ」は今後、検討するにはもう少し体験をしてから行うことがいいと思う。</p>
岡田 倫英	<p>○ポストイットを貼るワークショップは、議会自治の一例として今後繰り返し試行していきたい</p> <p>○議論の着地が「要望します」に終わらないよう、他の言い回し・選択肢を研究していきたい</p>
清水 優一郎	<p>○現に、一般質問後、その内容が委員会所管事務調査のテーマとなった例もある。議員それぞれが一般質問をどう使いこなすか。どう質問し、他の議員の質問のやり取りをどう聞くか。の意識を持つことが有効だと考える。</p>
小林 真一	<p>○テーマに沿った仕組み、やり方であると感じるが、議会のシステムとして正式に取り入れるかどうかについては、様々な考え意見があると思われる。</p> <p>○当事者以外の目線で質問内容を議論することで、自分ではわからない気付きがある、同じ質問の内容でも、視点、質問の仕方を変えることでより人の心に響く質問になる。今回の研修でのやり方を取り入れるのは悪くないと感じる。</p>
山崎 昌伸	<p>○「たかが一般質問、されど一般質問」にも記載があるが、「ある議員の質問に、聞いている議員が相槌を打つだけでも執行機関側には影響がある」とのお話があった。そこから学ぶべきこととして、一般質問を生かすには質問を議員個々のものに留めず、議会力を発揮することが大切、という認識が重要でまずはそこが出发点になるべき。この点が共有できないと、成果は薄いのではないか。</p> <p>○一般質問に対しては、議員個々でそれぞれ工夫をされていると思うが、可能であればどんな点を工夫しているか、出し合って共有できるとよいのでは。</p>
後藤 荘一	<p>○希望者を募ってその議員たちが取り組むことはどうでしょうか。</p>
木下 容子	<p>○今回行った勉強会の内容を、全議員で共有できるとよいと思う。</p>
福沢 清	<p>○一般質問を「議員一人のものにしない」仕組みづくりを検討する ・委員会での検討 ・議員間連携 ・関連質問</p> <p>○一般質問で理事者側が「検討する」と回答したものを定例会後の議運でまとめて理事者側に伝え回答を求める。</p> <p>○ほかに一般質問の改善点を協議する。（一般質問の時間について議員側の質問時間を規定する。）</p> <p>○議会改革推進会議で協議し合意ができれば会派に持ち帰り、意見を聞き、推進会議で再度協議する。</p> <p>○検討事項が多いので、今回の推進会議で早急に決めた方がよいものをまず決め、あとは申し送りする。</p>

4 その他、思いついたことなど

木下 徳康	○「政策や制度は気づく人がいたから行える。まずは個人の発見から始まっている」というのは印象的だった。
岡田 倫英	○土山先生が「12月議会に間に合うよう引き続きサポートしてくれる」と仰ってくれた。その通りに甘えさせて頂くのは現実的に難しいかもしれないが、大変心強いお言葉として受け止めている。
清水 優一郎	○事例を用いた意見交換による研究は、議員力・議会力の向上のために大変有効と考える。希望者、有志でも良いと思うので勉強会を開催してみてもと思う。 ○市民や社会との共感、共有を図るためにはまず知ってもらわないと始まらない。議会だよりのさらなる充実が必要と考える。
小林 真一	○「会派」という枠組みを考えると、正直、心にブレーキがかかってしまうが、飯田市民がより良く生活できるため、当市の発展のため、市民益を考えると今回の方法（やり方）は必要になってくる。 ○様々な市民の支持で議員をさせて頂いている、質問内容が総合的に良いと思えることは、23名の議員が一つのチームになって取り組む必要がある。
山崎 昌伸	○土山先生のご了解の上で、まずは委員会メンバーの過去の一般質問について、会議録を使ってご指導いただくと有り難いと思います。 ○今回は、先生のご都合もあって致し方ありませんが、もう少し時間にゆとりがあるとよかったですと感じました。
後藤 荘一	
木下 容子	（記述なし）
福沢 清	○今日の土山先生の「一般質問を通じた議員力・議会力の向上」は議員全員に配布されたい